

八海山 山行日：10月14日（日）～15日（月） 天候：14日晴れ～15日曇り～雨

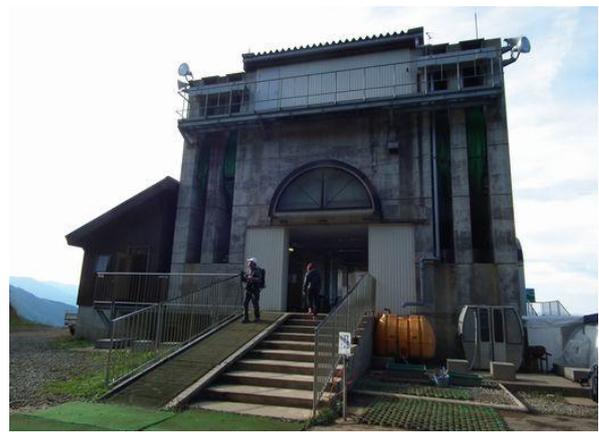
参加者：いが、他1名

コース：14 日自宅 3:50ー八海山スキー場 7:20～8:17ーロープウェー駅 8:25…女人堂 9:38～10:13…薬師岳 11:10…千本檜小屋 11:20 15 日千本檜小屋 5:00…デポ小屋へ戻り地藏岳手前 5:34…白川岳 6:07…摩利支 6:18…大日岳 6:29～7:02…千本檜小屋 7:48～8:36…女人堂 9:25～38…ロープウェー駅 10:37～11:00ー八海山スキー場 11:10

その他：ロープウェー片道1000円、公衆浴場「湯りあり」400円（六日町駅近くR17号沿い）



八海山は、地藏岳、不動岳、七曜岳、白川岳、釈迦岳、摩利支岳、剣ヶ峰、大日岳の八つの峰の連なりの総称、したがって八海山という名の山はない。六日町の酒「八海山」は銘酒として有名である。



今回は、八海山から中の岳、さらに丹後山へ縦走が目的だったが、体調不良により八海山の峰をたどり、千本檜小屋から来た道に戻ることに。以前から念願の縦走、数年前の春に十字峡からルートをとったが、翌日の天候悪化のため途中断念、今回リベンジの感はあったのだが、残念ながら果たすことは出来なかった。

時間がないと気が焦るばかりのこの頃である。

右上：八海山ロープウェー駅
右下：出発地点にある八海山大神、一応山行の無事を！ 願う。



左：賑わう女人堂、昔は女性はこちらまでとか！トイレ付の避難小屋





右：女人堂を過ぎ、祓川付近の草紅葉
下：薬師岳からみる千本檜小屋と地蔵岳、左奥には、目指すはずだった中の岳が遠い。

左：女人堂にある霊神碑で祈る信者、長年の修練のたまもの意気の合った動作に見とれる。その後も前後しながら上へ。



左下：千本檜小屋下から見る地蔵岳、八海山の岩稜歩きは、この鞍部から岩の稜線に上がり、いくつものピークを行く。それぞれの岩の上り下りは、クサリを使い、時には足もとの見えないようなところもあり、腕と足の力をフルに使う。ガイドには岩尾根は上級者、他は巻道をとあるが、その巻道も長い鎖やアルミの梯子の連続、多くの人が最初のピーク地蔵岳で戻るようだ。



宿泊は千本檜小屋としたが、避難小屋は小さく埃や物置状態であったので、管理小屋にお世話になった。

寝具なし素泊まり 2000円
水はなし、水場が小屋の手前4分ほど戻った鞍部から、笹の斜面を下ったところにあったが、半分に切ったドラム缶の溜り水、けっしてそのまま飲めるようなものではなく、一度沸騰させて使用した。様々な味がするまろやか！な貴重な水を使う。



左：八海山岩稜上から見る越後駒ヶ岳、中央雲の間から見えるとがったピークは荒沢岳。

この日は午前中の早い時間だけ山は見たのだが、私たちが小屋を後にする頃には、怪しい雲がわき、ロープウェイ駅に到着と同時に雨になる。
下：越後駒ヶ岳からクシガバナへの尾根



大日岳から鞍部に下り巻道を小屋へ、その巻道を 15 年ほど前、積雪のあるころ通った時には、雪の急傾斜に緊張して通過したことがあった。



左：大日岳の下り
右：入道岳への岩尾根

